

写真2 SELDAS 会話形式ディスプレイ。

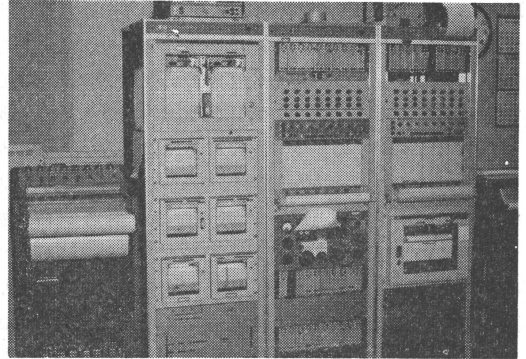


写真3 SELDAS SMS/SEM 記録計。

Environment Services Center (SESC) があるが、SELDAS はこれの心臓部をなすものである (写真2, 3 参照)。

ところで、SELDAS は、いわゆる研究者にはあまり利用されていない。惑星間空間パラメータを用いて観測データを比較するというのがふつうの研究方法なので、それらのパラメータが出版されるまでの2~3カ月間は、オンライン・データは意味がないというのが一般的だからである。いわば、SELDAS は“サービス”である。そして、ある若い Ph. D. physicist が、こんなサービスにカネを使うのは馬鹿らしいと言ったことがある。若い研究者の思い上がりの発想と、彼より数等上の学者である Williams の深い洞察力との対比が、官庁における (あるいはこれからの世の) 研究のあり方を浮きぼりにしているのではないかと感じられたのである。

あとがき

わずか1年足らずの外国生活で、その国がよく解るといったことはあり得ない。あくまで個人的に感じた事を書いたので、見当はずれなこともあろうと思う。

アメリカは広く人種や考えも種々雑多である。われわれの感覚ではとまどうことが多い反面、日本製品があふれ、仕事の具体的な話になると、誰も似たような所で失敗したり、前進したりしている場合も多い。近いようで遠いようでといった感じが残っている。

文 献

- 古川武彦, 1977: アメリカ大気研究センター(NCAR)を訪問して, 天気, 24, 125-131.
D.J. Williams, 1976: SELDAS; An Operational Real-Time Solar-Terrestrial Environment Monitoring System, NOAA Technical Report, ERL 357-SEL 37.

気象学会および関連学会行事予定

行 事 名	開 催 年 月 日	主 催 団 体 等	場 所
月例会「レーダ気象」	昭和53年3月10日	日本気象学会	気象庁
日本気象学会 昭和53年総会・春季大会	昭和53年5月23日~25日	日本気象学会	気象庁
WMOシンポジウム「成層圏成分の変化に関する地球物理量的状況とその影響」	昭和53年9月26日~30日	国際気象機構 WMO	トロント(ヨーク大学)
第15回理工学における同位元素研究発表会	昭和53年6月27日~29日		国立教育会館